

平成 21 年度「環境人材育成のための大学教育プログラム開発事業」  
選定事業の概要及び選定理由

大学名	岩手大学
事業名称	ISO14001 と産学官民連携を活用した「 T字型」環境人材育成プログラム
概要	<p>本事業は、ISO14001 の認証取得と産学官民連携を活用して、実践的環境力を備えた環境人材を育成するプログラムの開発を行う。</p> <p>岩手大学は、すべての学生に対する専門性に加え、環境に関する理解と認識（基礎的環境力）を付与する「T字型人間」育成を進めている（「学びの銀河」プロジェクト）。その基盤の上に、共通教育の充実（科目開発と教材開発）、ISO14001 学生監査員育成の実習科目の開発、産学官民連携による地元中小企業の経営グリーン化支援プログラムの開発の3つを結合して、基礎的環境力（横軸）の充実に加え、個々の専門（縦軸）とは別に「環境マネジメント」の実践的環境力をもう1つの縦軸として備えた「T字型」環境人材を育成する。</p> <p>また、産学官民連携に加え、いわて高等教育コンソーシアムや幼小中高大専ESD円卓会議とも連携して地域社会のグリーン化に関わるインターンシップやボランティアを奨励し、最後に大学として資格認定を行う。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の設定、取り組み体制、学内外の諸組織との連携等が明確であり、その実効性は高い。</li> <li>・学生による地域のグリーン化支援等、実践力を身につける取組が環境人材の育成に期待できる。</li> </ul>

大学名	東北大学
事業名称	環境政策技術マネジメントコース創設プログラム
概要	<p>環境分野の企業や行政機関が抱える問題を鳥瞰的視座で解決するビジネスシステムを創出し、実現に導く環境マネジメントスキルを有する即実践型環境マネジメント人材を養成する「環境政策技術マネジメントコース（修士）」を創設する。</p> <p>東北大学大学院環境科学研究科では平成 21 年度まで 5 年間実施してきた環境マネジメント人材教育の実績を活かし、1 年目、2 年目に、これを発展させた新カリキュラムを構築し、環境マネジメントにかかわる教科書を作成する。また、2 年目から 10 名の入学者に対して実践力を総合したスキルの養成を開始する。3 年目に、所定の単位を取得し最終試験に合格した者に対して学位（修士）を授与する。特に、高度な環境マネジメントスキルを有する者に対して環境 P0（プログラムオフィサー）認定を授与する。</p> <p>また、本カリキュラムによる教育効果を大学内外の専門家による委員会により評価を行い、修了生のフォローアップの仕組みを整備する。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成の目標が明確であるとともに、多彩な実践的教育手法が提案されており、環境人材の育成に期待できる。</li> <li>・成果物として、教科書の作成があげられており、プログラム終了後の普及可能性が見込まれる。</li> </ul>

大学名	上智大学
事業名称	アジア大学間ネットワークを活用した産学協同の環境人材育成プログラム
概要	<p>低炭素社会構築のためには、先進国の技術・資金・経験を、アジアを軸とする途上国に効率的、効果的に移転し、先進国・途上国の市場を連携させる必要があり、そのような市場づくりの担い手としての環境知識・国際性・実務力を備えた人材の育成が求められている。上智大学はすでにベトナム、フィリピンなどの大学との間で、環境・社会を軸とした学生交流プログラムを実践中のほか、文理融合を特色とする環境大学院（地球環境学研究科）を軸にした環境人材輩出で実績を上げている。</p> <p>このような上智大学のもつアジア大学間のネットワークを活用し、また環境ビジネスの実務スキルが豊富な日本スマートエネルギー社や、環境リスクに強い東京海上日動火災などの民間企業と連携することで、環境による国際的な経済活性化を担うリーダーをはじめ、アジアの環境市場をリードする環境人材を育成するためのプログラム開発を目指す。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上智大学内の多数の研究科が実行機関として参加しており、学内での実施体制がしっかりとしている。</li> <li>・学術交流協定を結んでいる海外、特にアジア地域の複数の大学と連携できる体制となっており、学生の国際性と実践性の育成が期待できる。</li> </ul>

大学名	滋賀県立大学
事業名称	「水よし、地域よし、未来よし」 地域との連携による 環境“三方よし”人材 育成プログラムの開発
概要	<p>滋賀県立大学は、琵琶湖とその集水域で形成された環境県の大学として、開学以来「キャンパスは琵琶湖、テキストは人間」をモットーに、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する大学」として、地域と連携した環境人材の育成を実践してきた。</p> <p>本事業は、これらの実績を踏まえて、水環境と共生する持続可能社会をテーマとした「水よし、地域よし、未来よし」の「環境“三方よし”人材」の育成を図り、全国やアジアでの水環境を中心とした地域環境改善、地域活力創造を担う環境人材育成プログラムの開発を行う。</p> <p>具体的には、本学の環境フィールドワーク、環琵琶湖文化論実習、近江楽座や近江環人地域再生学座で培った地域との連携関係や実績を活かし、全学共通必修科目「環境マネジメント総論」などの環境人材育成カリキュラムの充実、アジア提携大学等との連携による国際フィールドワーク、環境人材育成インターンシップ、生活体験型課題解決学習プログラムの開発を行う。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琵琶湖をフィールドとした実践型の教育手法が特徴的であるととも、具体的なプログラム内容が提案されており実現可能性が高い。</li> <li>・アジアの大学と連携して交換留学やフィールドワーク等の実践型教育を行う等、国際的に活躍できる環境人材の育成が見込まれる。</li> </ul>

大学名	大阪府立大学
事業名称	国際協調力を持つ環境人材育成のための教育プログラム 開発事業 ～環境人材育成に向けた学部・大学院の一貫教育～
概要	<p>本事業では、我が国のみならず開発途上国（特にアジア圏）においても、環境を統合した社会経済システムへ変革する牽引役を担うことのできる環境人材を育成するため、学部・大学院の一貫教育としてのプログラムを構築する。</p> <p>学部教育では、「環境学（副専攻）」として、これまでに各学部で開講している専門性の強い環境科目と併せ、持続可能性などの分野横断的な知識を学ぶための新規講義科目並びに地域活動や海外でのフィールドワーク等を行う新規演習科目（プレ実践教育）を開講する。</p> <p>大学院教育では、「国際環境活動コース」として、高度な倫理観と環境経営手法等を学ぶための新規講義科目、国際的なコミュニケーション能力を養うための新規講義科目、開発途上国の環境保全活動を企画・実践する新規演習科目を開講する（実践教育）。</p> <p>また、これらのプログラムをパッケージとしてとりまとめ、環境人材育成のための教育マニュアルを作成する。</p>
選定理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部では環境学の副専攻を設置するとともに、大学院では国際環境活動への参加を目指した新規講義・実践・体験科目の開設が提案されており、一貫した教育手法が効果的であると考えられる。</li> <li>・成果物としてマニュアル作成が含まれており、プログラム終了後の普及可能性が見込まれる。</li> </ul>